

東京大学教養学部

2010年度夏学期

地球温暖化と経済学

第1回 地球環境問題の本質－経済的側面からのアプローチ

山口 光恒

はじめに

本講義の特色と進め方 年間を通して実施、冬学期はディベートも行う
 ますます重要性を増す環境問題（あらゆる政策に環境面の考慮を、3E）

特に温暖化、廃棄物、有害物質、自由貿易と環境保護、企業行動（ISO）

鳩山政権の25%削減問題

1、公害問題から地球環境問題へ

＜地球環境問題と公害問題の相違＞

	公害問題	地球環境問題
影響の空間的広がり	特定地域	全人類
企業と住民	対立の構図	全員が加害者・被害者
影響の可能性	可視的	非可視的
不確実性	小	大
国際政治的要素	なし	南北問題
影響の時間的広がり	現在の問題	将来世代の問題

持続可能な開発とは

“Development that meets the needs of the present without compromising the ability of the future generations to meet their own needs”

2、地球環境問題とは

地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、森林消滅、砂漠化、種の多様性の減少、有害廃棄物の越境移動、海洋汚染、途上国の公害（廃棄物問題）

- 環境汚染
- ┌自然の同化吸収能力を超えた、あるいは困難なものの排出
 - └アメニティ破壊ー自然の景観等
 - └自然破壊ー再生可能資源の再生範囲を超えた破壊

3、地球環境問題の原因と本質

- 産業革命以前の経済成長・効率追求の帰結
- 持続不能な開発（環境の吸収能力、回復能力を超えた発展、人口の爆発）
- 技術革新の実際
- OECD資料（1970年～1980年代後半）

	GDP増加率	SO _x 排出量削減割合
日本	2.16倍	-80%
米国	1.68倍	-27%
欧州	1.59倍	-42%

(OECD, The State of the Environment, 1991 p. 284)

- しかし→ 生態系のバランスの崩壊→ 人類への悪影響
- 地球環境問題（この典型的な例が地球温暖化）の本質
- 現世代と将来世代にまたがる問題→持続可能な発展
- このままではいけない（経済成長と環境保護の関係再考の要）
- コスト論議の重要性
- 環境破壊は、人間生活を豊かにしようとする経済活動によって起きる（先進国）
- 社会が豊かになることで減少する（途上国）

4、地球環境問題と経済学

- 経済学に何が出来るか
- 地球環境問題と学問分野 自然科学、社会科学
- 経済と法律（効率と正義・衡平）
- 市場の失敗と政府の介入
- 環境破壊のメカニズム
- その必要性和方法
- 政策手法の多様化

政府の介入は正当か

政府は常に賢いか、コースの定理（別途講義）

経済的手段の限界

健康への影響（コマンド&コントロール）

環境コスト及び便益の計測の困難性

政治的実現可能性（IPCCの原則、環境効果、費用効果、衡平性、実現可能性）

G N Pの見直し（フローとストック）→グリーンG N P論議

5、政府、企業、消費者の役割

政府	適切な環境政策
企業	環境に配慮した企業行動・製品
消費者	ライフスタイルの見直し（便利なことは良いことか）
社会全体	価値観の再構築

参考文献（講義全体を通して）

岡 敏弘「環境経済学」岩波書店2006年

山口光恒「環境マネジメント」放送大学教育振興会 2006年

フランス・ケアンクロス著 東京海上グリーンコミティ訳

「地球環境と成長」 東洋経済新報社 1992年

山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店 2000年

日経BPのWeb-siteに連載中 <http://premium.nikkeibp.co.jp/em/column/yamaguchi/>

関連 Websites

日経BP ECOマネジメント <http://premium.nikkeibp.co.jp/em/>

小生ホームページ <http://m-yamaguchi.jp>

ID: komaba

Password: enveco